

研究テーマ 回復期リハビリテーション病棟における
認知症高齢者自宅退院支援の看護師への意識調査
～認知症高齢者の自宅退院支援アセスメントツールを用いて～

病院名 医療法人喬成会 花川病院

演 者 〇形川久美子(看護師) 大類由加理(看護師) 夏堀彩華(看護師)
堀井愛美(看護師)

概 要

【背景】

認知症高齢者には、認知症の特性に応じた有効な看護とリハビリテーションを提供し、再び住み慣れた地域へ戻ることが可能となる退院支援を求められている。堀井ら(2023)は認知症高齢者の自宅退院支援アセスメントツール(以下アセスメントツール)を作成した。

【研究目的】

回復期リハビリテーション病棟(以下、回復期リハ病棟)においてアセスメントツールを活用し、看護師の意識変化と取り組む課題を明らかにする。

【研究方法】

- 研究デザイン:介入研究
- 研究期間:2023年4月～9月
- 研究対象:A病院回復期リハ病棟勤務し、退院支援経験のある看護師・准看護師
- 調査内容:基本属性、アセスメントツール使用件数、アセスメントツール使用前・使用後の退院支援の意識変化、アセスメントツールの使用前・使用後の項目確認頻度、アセスメントツールの追加検討項目
- 介入方法:
 - アセスメントツール使用方法を研修
 - アンケート調査
一次調査:アセスメントツール使用前
二次調査:アセスメントツール使用后
- 調査期間中に入院している、もしくは新規入院患者で自宅退院を目指す患者にアセスメントツールを約3か月間使用
- 分析方法
アセスメントツール使用前・使用後の2群間をウィルコクソン符号付順位和検定を使用
- 倫理的配慮:A病院倫理委員会で承認を得た

【結果】

対象者は43名(有効回答率93.5%)①介入後は退院後の生活を見据えた退院支援を行えているという意識が低下した。②アセスメントツール使用前後では8項目に有意差が出た。栄養管理の項目のみ、アセスメントツール確認頻度が減少したが、それ以外は増加した③アセスメントツール使用は1件が61%④アセスメントツールを使うことが効果的であるという回答が半数以上あったが、使用回数が少なく、使いこなせていないとの意見もあった。⑤アセスメントツール追加検討項目として、火の始末能力・金銭管理能力の有無が半数以上あった。

【考察】

①経験を頼りに、退院支援を行っていたが、アセスメントツールを使用することで、今まで行っていた退院支援が不十分であることに気付いた為、意識が低下した。②退院後の生活を見据えた食事環境・栄養管理方法を看護師が主体的に取り組む必要がある。

【結論】

- アセスメントツールを活用することは退院支援に取りくむ看護師に意識変化があった。
- アセスメントツール40項目のうち8項目に有意差があった。